

## 「棚から牡丹餅」(土手)

会社に居ながら送金の出来るインターネットバンキング、さらに納税も出来るダイレクト納付など、パソコンやインターネットの技術と金融データを融合し様々な用途に活用することをFinTech(フィンテック)と言います。とっても便利でしてインターネットバンキングの提携金融機関に登録すれば色々な口座の出入りが電子データで取り出すことができ、さらに一手間加えることで会計帳簿の仕訳として使えます。これにより伝票起票や入力業務が大幅に短縮でき、時間にゆとりが出来ます。弊所でも早速このサービスがご利用いただけるよう取り組んでおります。インターネットバンキングだけでさえ便利なシステムですが、それを利用しさらに「楽」が出来てしまいます。ご興味のある方は担当者までご連絡ください。



## 今さら聞けない 経済用語

## 【今月の教えてキーワード：ネガワット】

「ネガティブ」と電気の単位である「ワット」を組み合わせた造語。企業や家庭など電力需要者が節電で捻出した電力を指し、発電による供給増と同じ効果がある。1990年代にアメリカで提唱された。節電の目的を善意からビジネスへと転換することができ、需要者が節電に積極的に取り組むことが期待される。2017年4月には経済産業省の主導で「ネガワット取引」の取引市場も創設されるなど今後、運用が進むと予想される。

## 偉大なる日本の100人に学ぶ 人の心を魅了する生き方。

## 【戦わず勝つのが兵法なり：武田信玄】

戦国時代最強の武将として活躍した武田信玄は1521年、甲斐国の守護・武田信虎の嫡子として生まれました。粗暴で無学であったといわれる信虎は、力で民を支配する悪政を敷き、学問好きで優秀な信玄を疎んじるようになります。この状況を憂えた重臣たちは信虎を見限り、信玄を擁立して無血クーデターを実現。信玄が20歳の頃に信虎を追放し、甲斐国主となります。山本勘助を足軽大将として登用するなど、後に「武田二十四将」とも称される最強の家臣軍団を率いた信玄は、武士と農民を差別しない平等主義を掲げ、家法を定めて領地を法治国家とするなど優れた治世者として今なお山梨の人々に愛されています。そんな信玄の政治哲学の根幹にあったのが、王道思想だといわれています。中国の戦国時代の代表的な思想家・孟子が体系化したこの思想は「民こそが国家の財産とし、君主に過ちがあれば臣下が誡め、聴かなければさらに誡め、どうしても聴き入れなければ、君主を取り換えても構わない」としています。また部下に対して常々「戦死は名誉ではあるが善法ではない」と説き、「能く(よく)戦う者は死なず」という言葉も残っています。「人は城、人は石垣、人は堀、情けは味方、仇は敵なり」という信玄の言葉にも、民を大切に家臣を思いやりながら正義を貫いた人間性が感じられます。

今を生きる  
先人の言葉

こけたら  
立ちなはれ

「経営の神様」の異名をとる松下幸之助の言葉。雨が降ったら傘をさす。こけたら立つ。何も難しいことではなく「当たり前なことを当たり前前に続ける」だけでいい。

# トレンドを斬る!

「明治ザ・チョコレート」がヒットしています。手軽に買えるものの価格は少し高め、クラフト調のパッケージがおしゃれで

高級感があると話題です。見た目以上のこだわりはそのおいしさ。各産地のカカオ豆の違いが味わえる上、6種類の風味は香りや酸味、ミルク感などでグラフ化されています。またブロック型やギザギザ型など、4種類の形状で異なる口どけも人気の要因でしょう。チョコレートを「お菓子」から「大人の嗜好(しこう)品」へと転換を図った一品です。



## 365日が楽しくてたまらない! 「商売のヒント」

### 今月の商売のヒント: 【商売は練って待つ】

公園や駅前広場などで、ギター片手に歌っている若者を見かけることがあります。路上で自作の歌を弾き語りする人たちをストリートミュージシャンと呼ぶそうです。彼らは、うまい・下手を越えたところで聴衆を魅了しているように感じるのには若い情熱のせいでしょうか。夢を追いかけている人の姿はまぶしいものですね。

これは、あるストリートミュージシャンの興味深い話です。彼が路上で歌い始めたばかりの頃は、足を止めてくれる人の気配さえなかったそうです。無名の素人だから当然のこと。彼はそう思っていたようですが、路上ライブを続けるうちにあることに気付いたのです。ここには看板もなければ椅子もない。もしかしたら僕の歌を聴きたいと思ってきている人がいるかもしれないのに「ここでライブをやっています。ぜひ僕の歌を聴いてください」というサインを何も出していなかった。これでは立ち止まりづらいのは当たり前だと気付いた彼は「路上ライブやっています」の看板を出し、小さな椅子を置いたところ、すぐに足を止めてくれる人が現れ、その数が少しずつ増えていったようです。人に聴いてもらいたければ良い音楽をやることが大



前提ですが、同時に「気兼ねなく聴ける」というお客さま目線の環境を整えることも大切だったのでしょう。良いものを作れば売れると思うのは傲慢(ごうまん)だと、ある経営者がインタビューに答えていました。良い商品だから、良いサービスだから、あとは「果報は寝て待て」の方程式が単純に成り立つなら商売はどんなに楽でしょう。しかしながら商売はそんなに甘くありません。世間には、間違いなく良いものなのに売れない商品やサービスが山ほどあります。どんなに良いものを作っても「それを売る努力をしないと売れませんよ」というわけです。「果報は寝て待て」もひとつの考え方だと思いますが、「果報は練って待て」という指南もあります。できる限りの努力と工夫をした上で静かに時機の来るのを待つ。そんな粋な商売をしていきたいものですね。

トナリの

## 本棚



### 【罪の声】

父の遺品のテープから流れ出した幼い頃の自分の声。それが未解決事件の恐喝に使用されたテープと知った主人公は……。 「グリコ・森永事件」に着想を得て、圧倒的なリアリティで描かれた長編小説。「これが真実では？」と思わせる一冊です。

### 船越税理士事務所

〒620-0054

京都府福知山市末広町1-1-1 中川ビル3階

TEL:0773-22-3708 FAX:0773-22-7343

<http://www.f-office301.com>

E-mail: [info@f-office301.com](mailto:info@f-office301.com)

皆様のご感想をお待ちしております◎◎◎◎◎◎